

アミカペットクリニック活動通信

Vol.6 H30.5.7

日本獣医師会雑誌に論文が掲載されました！

当院で過去に実施したウサギの麻酔に関する論文が、
日本獣医師会雑誌4月号に掲載されました。

『ウサギの不正咬合処置時の麻酔回数が回復時間に及ぼす影響』 大成 表子ら

ウサギの不正咬合処置時には麻酔が必要となります。繰り返す咬合異常に対し頻回の麻酔を実施した場合に、回復時間（処置後に麻酔から覚めるまでの時間）への影響がないか、検討しました。

この結果、麻酔の回数は術後の回復時間に影響を与えず、加齢による影響の方が大きいことが推察されました。

不正咬合処置って
なに??



短 報

小動物臨床関連部門

ウサギの不正咬合処置時の麻酔回数が 回復時間に及ぼす影響

大成表子 小川祐生 八村寿恵 山本誠也
鐘ヶ江晋也 網本昭輝†

山口県 開業（アミカペットクリニック：〒755-0023 宇部市恩田町3-2-3）
(2017年2月23日受付・2018年1月15日受理)

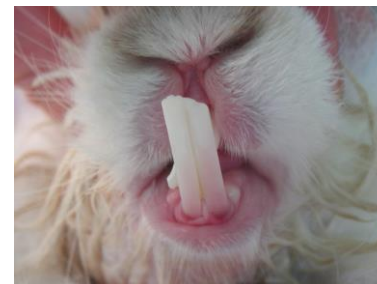
要 約

ウサギの不正咬合では、臼歯の棘の切削処置のために頻回の麻酔が必要となる個体があり、頻回麻酔の影響が懸念されている。今回、当院で歯科処置のために1個体当たり39～103回の頻回の麻酔を実施したウサギ11例について、麻酔回数及び年齢に対する回復時間について検討を行った（頻回麻酔群）。また、頻回麻酔群に含まれない同様の歯科処置を行ったウサギ67例について、初回麻酔時に同様の項目について調査を行った（コントロール群）。頻回麻酔群では、麻酔回数と回復時間に相関がほとんどなかった。一方、加齢に伴い回復時間が有意に延長し、コントロール群でも同様の結果が得られた。同群の同じ年齢区分の比較で有意差はなかった。したがって、歯科処置などの侵襲の少なく、短時間の麻酔では頻回麻酔の影響よりも、加齢に伴う影響の方が大きいと推察された。

——キーワード：麻酔回数、不正咬合、ウサギ。

日獣会誌 71, 189～192 (2018)

下の写真のように歯が異常に伸びたり削れたりしてしまうと、口の開閉困難、舌の損傷による痛みといった理由から食欲不振・廃絶を呈します。
この場合、麻酔下での歯の切削処置が必要となります。



切歯の過剰伸長



臼歯の棘状突起

創刊19年10月4日 第71巻第4号発行 平成30年4月20日発行(毎月1回20日発行) (通巻第645号) ISSN 0948-6474

Journal of the Japan Veterinary Medical Association 日本獣医師会雑誌

日 獣 会 誌 J. Jpn. Vet. Med. Assoc.

4

Vol.71
No.4 2018
(P.162-211)

平成30年度 獣医学術学会年次大会 神奈川のリーフレットを同封



日本獣医師会雑誌(日獣会誌)の主な内容

講 義 獣医学科教育から獣医研修まで
— One World, One Health の実現のために —

猪山 弘行

解説・報告 動物用医薬品管理を巡り争ひ続けた現状 (XX) —
動物用医薬品の各論 (その9) —
サルファ剤

川西 陽子

日本獣医師会学会学術誌

産業動物臨床・家畜衛生関連部門

原 著 生産を阻んだ免疫不全ウイルス感染症による
牛ウイルス性下痢ウイルス持続感染牛の
臨床経過

嶋成和博 他

小動物臨床関連部門

短 報 を 掲 載

獣医公衆衛生・野生動物・環境保全関連部門

原 著 病原性心内膜炎及び腸結核菌 *Streptococcus*
salivarius の病原性調査と分子アラインメント

市川 真 他



1975年4月創設
会長 日本獣医師会

ウサギの不正咬合処置時の麻酔回数が 回復時間に及ぼす影響

大成 衷子 小川 祐生 八村 寿恵 山木 誠也
鐘ヶ江 晋也 網本 昭輝[†]

山口県 開業（アミカペットクリニック：〒755-0023 宇部市恩田町3-2-3）

（2017年2月23日受付・2018年1月15日受理）

要 約

ウサギの不正咬合では、臼歯の棘の切削処置のために頻回の麻酔が必要となる個体があり、頻回麻酔の影響が懸念されている。今回、当院で歯科処置のために1個体当たり39～103回の頻回の麻酔を実施したウサギ11例について、麻酔回数及び年齢に対する回復時間について検討を行った（頻回麻酔群）。また、頻回麻酔群に含まれない同様の歯科処置を行ったウサギ67例について、初回麻酔時に同様の項目について調査を行った（コントロール群）。頻回麻酔群では、麻酔回数と回復時間に相関がほとんどなかった。一方、加齢に伴い回復時間が有意に延長し、コントロール群でも同様の結果が得られた。両群の同じ年齢区分の比較で有意差はなかった。したがって、歯科処置などの侵襲の少なく、短時間の麻酔では頻回麻酔の影響よりも、加齢に伴う影響の方が大きいと推察された。

——キーワード：麻酔回数、不正咬合、ウサギ。



臼歯歯冠に形成された棘状突起 1

右下顎臼歯歯冠に形成された舌側水平方向に伸長した棘状突起。最も危険な棘状突起である。このような棘状突起が形成されると、ほとんど舌に切創が形成されるため症状が突然出ることが多い。切削治療も次回切削までの期間が一番短いタイプになる。

右は臼歯歯冠に形成された舌側に斜め上方に伸長している棘状突起。舌の動きによっては舌に切創ができる。定期的な切削が必要。切削期間も短い。



切歯の過剰伸長の写真

切歯の不正咬合のため過剰伸長を示しているウサギの写真。このような不正咬合では上顎の切歯が下顎の軟部組織を損傷したり、口が閉じにくくなったりするため、臼歯の咬耗も悪くなり、臼歯不正咬合を招く原因にもなる。